

平成13年12月に広島ガス株式会社様から寄贈していただいた「愛のガスライト」2基（正門前）の使用が今月中旬から再開しました。鈴峯女子短期大学時代には使用されていましたが、暫し休止。新校舎完成から2年、やっと点灯することになりました。点灯時間は、6～9月：19時から23時30分、10月～5月：17時から21時30分です。ガス灯の何とも言えないほのかな灯は、ノスタルジックな雰囲気を出しています。機会があればご来校いただき、ご堪能なさってください。



感性を磨くということ

日々の学校生活の中で、生徒の見事な感性に出くわすことがあります。2つ、紹介します。

冒頭の「愛のガスライト」は19時に点灯されます。部活動を終えて学校を退出しなければならない時間が19時30分なので、その時間にはガス灯が点灯されています。ガス灯は電球やLEDのように周辺を明るく照らしてくれるような明るさではないものの、点灯されていることには誰しもが気づきます。しかし、「意外と暗いだね」、「もっと明るくないと」などとワイワイ言いながら帰っていく生徒がほとんどの中で、「綺麗だねえ、落ち着く灯りだねえ。クリスマスの晩、食卓を照らすような灯りに近いかなあ」と言った女子生徒がいましたよ、と守衛さん。いいですね、その感性。見事なとらえ方です。

梅雨もいよいよ佳境に入ってきました。九州や広島、岐阜でも降雨による河川の氾濫や土砂崩れによって甚大な被害をもたらしました。梅雨明けが待ち遠しい限りです。傘をさして登校する日が続きました。正門から校舎に向かう通路は、徒歩や自転車の生徒ばかりか、時間帯によっては数台の先生方の車も侵入する通路です。6月終わりごろ、校門に向かう私とすれ違う男子生徒がいました。そのタイミングで自転車を押して来た生徒がいたので傘がぶつかりそうになりました。そのときその男子生徒がさっと傘をかしげたのです（私の反対側に）。「おお、なかなか」。すると数日後に同じようなシチュエーション。「おはようございます」「おはよう」と交わしながら、やっぱり傘をかしげたのです。いつ、誰に教わったんだろう。その仕草、感性、実に素晴らしい。

感性とは、何かを見聞したときに深く心に感じ取ることや、感覚的に物事に対して感じていることを表すことです。感受性とか、センスということに置き換えてもいいかもしれません。あの人は感性豊かな人だとか、いいセンスしてるねえなど言うものの、そうしたものをどうやって身につけたらいいのかは定かではありません。とっさのタイミングで「クリスマスの晩の灯り・・・」

とか、さっと傘をかしげるなどといった言葉や動きは、見聞したことを受け容れようとする素直な心持が働き、繰り返され、その行為がその人に蓄積されていって感性として表出するのではないか、と思います。

実は感性は生きるための支え、武器なのです。物事を多面的に見ることができ、批判的に見ることができるとの根本は感性にあります。感性を磨くこと、すなわち、素直な心持こそがすべてなのでしょう。

楽しんで試合に臨む

春から初夏にかけて行われる予定だったさまざまな大会が新型コロナウイルスの影響で延期や中止が相次ぎました。先頃、広島県高校総体代替大会が行われ、器械体操団体優勝、新体操種目別優勝、陸上競歩女子優勝など、本校生徒が活躍しました。その中で、ソフトテニス女子個人で優勝した3年生の浅見今日子さん（2年生濱島さんとペア）に話を聞きました。

「春の全国選抜大会で優勝を目指していましたが、残念ながら大会は中止。その後、気持ちを切り替えて高校総体での優勝を目標にしましたが、またしても中止に。悔しくて仕方ありませんでした。何をすべきか正解が見つからず、焦るばかりの日が続きました。キャプテンとして“頑張ろう”というのめ外れのような気がして、仲間には気の利いた言葉を用意できませんでした。県総体代替大会が決まり、最後の大会が訪れたことへの喜びは最高でした。大会に臨み、絶対優勝というより“楽しもう”という気持ちが先行していました。それは、2月のアゼリアカップ（優勝 於高松）のときから試合を楽しめるメンタルが出来上がっていたからです。初戦は良くなかったけど、準決、決勝とさらに“楽しもう”という気持ちでいっぱいでした。最後に勝ててとっても嬉しかったです!」。

“楽しんで試合に臨む”、この2年間で気づいたんだそうです。浅見さん、今年のこの経験は何ものにも代え難いね。今後ますますの飛躍を期待しています。